

## 基礎編課題⑥

コメントの追加 [na3]: なぜ呆れているのでしょうか？ 亜衣が面倒くさがっているからでしょうか？ 律の気持ちを補足できると良いです。

コメントの追加 [na4]: 新しいキャラクターの名前を自然に出せています。

コメントの追加 [na2]: 歩きながら

コメントの追加 [na1]: 誰と誰が話をしているのかわからず、読者はついていけなくなってしまいます。一文目・または「次の授業なんだっけ」の後にキャラクターの状況描写を入れたいです。

【名前：】

「主人公を取り巻く状況を丁寧に書く」ことを意識して、800文字程度で文章を書いてみましょう。

シチュエーション「次の授業に向けて学校の廊下を歩く」

「次の授業なんだっけ」

「理科。で、実験」

「げー、また教室移動？ 面倒なんだけど」

校庭を見渡せる渡り廊下を歩き、亜衣は大げさに伸びをする。それを律は後ろから呆れた目で見ていた。

「てか寒くね？ この渡り廊下なんで外にあるの」

「さあ」

律は適当に返事をする。すると後ろから騒がしい足音が聞こえてきた。

「律——！」

「うわっ！」

背後から抱きつかれ、律はバランスを崩す。持っていた美術の教科書が白い廊下に散らばった。

「あー、もう」

「うわわ！ ごめんね、律！」

「なーにやってんのよ。陽花里」

「えへへへ……」

律の教科書を拾う陽花里は気まずそうに笑う。どうやら自分でも思った以上に勢いが余ってしまったらしい。

他の生徒たちがチラチラと物珍しきに見てきて、律はさっと教科書を拾って何でもない風を装った。

「あ、ご、ごめんね。律」

「別にいいよ。で、どうしたの？ そんな走ってきて」

「う、うん。あのね、次の授業が実験じゃん。だから一緒に出来たらなー、なんて……」抱きついてきた勢いとは裏腹に、しおしおと言葉の勢いがなくなっていく。

学校の実験は数人かのグループになって行われる。その組み分けは自由で、いわば『仲の良い人と組んでいいよ』ということだ。

コメントの追加 [na5]: この「よく」は「誘われる」にかかります。あまり離れると読みにくくなってしま  
うので、「この二人はよく友達から誘われる」または  
「この二人は友達から組み分けによく誘われる」とす  
るといいでしょう。

コメントの追加 [na6]: ここだけ律の心の声になって  
います。「律はそう思った」などの描写の補足があると  
良いです。

律は友達が多い訳ではないが、基本的に誰とでも話せる性格だ。それは亜衣も同じで  
よくこの二人は友達から組み分けに誘われる。

けれど陽花里は違う。夏休み明けに転校してきた彼女は友達の輪が狭い。そのせいで  
焦っているのか、他のクラスメイトとの距離感がいまいち掴めていない印象がある。

「律？」

陽花里が不安げな声を出す。断られることを恐れているのだろう。

律にとっては断る理由もない。それは隣でアイコンタクトをとった亜衣も同じだっ  
た。

「いいよ。一緒に組も」

「よろしくねー。陽花里」

律と亜衣の返事を聞いた途端、ぱあっと陽花里の表情が明るくなる。

全く。女子というものは面倒くさい。